

イネ出穂前の穂ばらみ期頃に、いもち病や稲こうじ病発生の好適条件が続けば、薬剤の予防散布を行いましょう

水稻栽培で収量や品質に大きく関与する重要病害のいもち病のうち、**穂いもちの発生は出穂前後の降雨と葉いもちの発生状況が、また、稲こうじ病は穂ばらみ期（出穂14～10日前頃）の降雨が大きく関係するとされています。**

病害虫発生予報7月号（県病害虫防除所）によると、6月下旬現在、葉いもちの発病度（本年0.2%、平年0.1%）および発生地点率（本年7%、平年3%）ともに平年よりやや高い状況となっています。また、葉いもち予察データ（ブラスタム）による葉いもち感染好適または準感染好適条件の出現日数は平年よりやや少なかったものの、県内全域で確認されている状態で、**7月の発生量はやや多いと予測**しています。今年は梅雨明けが早く、6月末から高温の日が続いており、現在はいもち病の発生にやや不適な気象条件と考えられますが、今後とも気象予報には注意していくことが必要です。

7月中旬には「あきたこまち」が、また、「コシヒカリ」も7月下旬～8月上旬には出穂期になりますので、現在の気象予想に反して**穂ばらみ期～出穂期に降雨日が多くなると予報されたら、穂いもちや稲こうじ病の発生に十分注意**してください。

特に、穂いもちによる減収がときどき発生する地域、また、過去に稲こうじ病の発病が多かった水田などでは、下記を参考に薬剤の予防散布に努めてください。

1 いもち病

穂首いもちは、出穂直後から10～15日後くらいまでに感染すると被害が大きくなります。その後20～25日目くらいまでは収量に影響する被害が発生する恐れがあり、枝梗いもちや籾いもちでは、さらに感染期間が長くなります。

穂いもちの主な伝染源は葉いもちの病斑で、**止葉以下3葉目までに病斑がある場合には、特に注意が必要**です。

葉いもちが発生していて、出穂前～出穂以降の天候が不順と予想される場合は、**出穂期前に予め薬剤防除**する必要があります。なお、ジャンボ剤や粒剤では、薬剤により効果発現までの期間が異なるため、使用時期を確認して下さい。

表1 水稻 穂いもちの主な防除薬剤 (令和4年7月1日現在)

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数	分類
コラトップジャンボP	小包装(パック) 10～13個(500～650g) / 10a 投入	出穂30日前～5日前まで / 2回以内	16.1
ゴウケツパック	小包装(パック) 10個(450g) / 10a 投入	出穂5日前(収穫30日前まで)まで / 1回	16.3
フジワン粒剤	3～5kg / 10a (湛水散布)	出穂10～30日前(収穫30日前まで) / 2回以内	6
キタジンP粒剤	3～5kg / 10a	出穂7～20日前 / 2回以内	6
ルーチン粒剤	1kg / 10a (湛水散布)	収穫30日前まで / 2回以内	P3
オリゼメート粒剤	3～4kg / 10a	出穂3～4週間前(収穫14日前まで) / 2回以内	P2
ブラシンフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	U14と16.1

注1) パックや粒剤は、水田が水深3cm以上で均一に散布し、3～4日は湛水状態を保ち、散布後一週間は落水、かけ流しを避けてください。

注2) 表1および2の分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

2 稲こうじ病

伝染源は前年の被害籾にできた厚膜孢子(耐久性の高い孢子)あるいは菌核とされ、被害残渣や土壌上で越冬したものが発芽し、飛散して穂ばらみ期頃にイネに感染するとされていますが、詳細については不明な点が多いです。

感染時期の穂ばらみ期頃に、降雨が多くて気温が低めだと多発生する傾向があります。

本病が発生すると登熟歩合の減少や千粒重の低下、青米などの増加がみられ、等級の低下や規格外となって、大きな経済的損失となります。特に、**採種用水田においては、防除を徹底して発病を防ぐ必要があります。**

<防除対策のポイント>

- 窒素の過剰施用や遅い追肥は、発生を助長するため、適正な肥培管理に努めます。
- 薬剤防除として、**出穂20～10日前が防除適期**です。幼穂を確認するなどして、防除時期が遅くならないようにします。
なお、**防除適期を過ぎると効果の低下や薬害発生の懸念が生じます**ので、必ず適期防除に心がけましょう。
- 収穫期に発病籾が観察されたら、可能な限り取り除き、健全籾に混入させないようにします。また、収穫作業は稲が十分乾燥してから行い、発病田と無発病田の作業を分けて行うなど、選別や混入防止を徹底しましょう。

表2 水稻 稲こうじ病の主な防除薬剤 (令和4年7月1日現在)

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数	分類
Zボルドー粉剤DL	3～4kg / 10a	出穂10日前まで / -	M1
ドイツボルドーA	2,000倍	出穂10日前まで / -	M1
トップジンMゾル	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	1
モンガリット粒剤	3～4kg / 10a (湛水散布)	収穫45日前まで / 2回以内	3

注) 粒剤処理は、出穂3～2週間前とし、上記表1の注意事項を守ります。モンガリット粒剤の収穫前日数が長いので注意してください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。